



神経疾患で MIBG心シンチグラフィ を受ける方へ

監修:金沢大学 医薬保健研究域 医学系 核医学 中嶋 憲一 先生
一般社団法人 日本核医学会

検査日時

年

月 日 ()

時 分

MIBG心シンチグラフィは、放射性同位元素という目印を付けた検査薬を使って、心臓の交感神経の様子を調べる検査です。

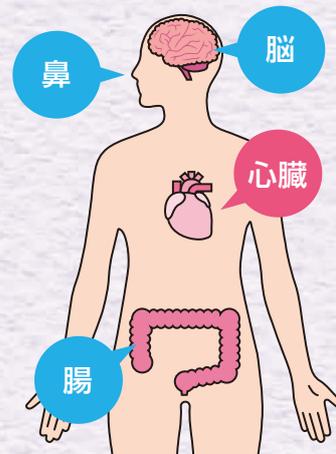
1 なぜ心臓の検査をするの?

交感神経は全身に分布している自律神経の一種で、心臓の活動を調節するはたらきがあり、ノルアドレナリン等の物質をやり取りしています。

しかし、認知症のひとつであるレビー小体型認知症や運動機能に障害がやすいパーキンソン病では、早期から心臓の交感神経が障害される*ことが知られています。

*心臓の交感神経は障害されても、心臓のはたらき自体は基本的に変わらないと考えられています。

- レビー小体型認知症やパーキンソン病で神経が障害されるおもな場所



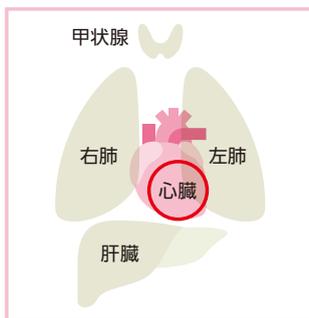
2 MIBG心シンチグラフィとは

MIBGは、ノルアドレナリンと同じ動きをする薬剤であり、心臓における交感神経の障害の程度を確認することができます。MIBG心シンチグラフィで心臓の交感神経を調べると、これらの病気と症状は似ていても原因が異なる疾患を区別できるので、適切な治療や対応を行うことに役立ちます。

検査画像例 (イメージ)

健康な人

レビー小体型認知症やパーキンソン病の人



心臓の交感神経が障害されているとMIBGがあまり集まらないため、心臓のある場所が白く抜けて見えます(中央○)

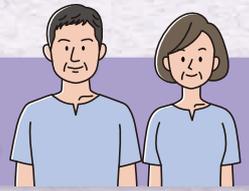
3 放射線の安全性について

日本の場合、日常生活における自然放射線による被ばく線量は、年間約2.1ミリシーベルトです。

MIBG心シンチグラフィ検査1回あたりの被ばく線量はおよそ1.4ミリシーベルトであり、健康被害の心配はないと考えられる線量です。

裏面もかならずご確認ください。

MIBG心シンチグラフィ検査の流れ



1 お薬の投与

検査薬を静脈に注射します。



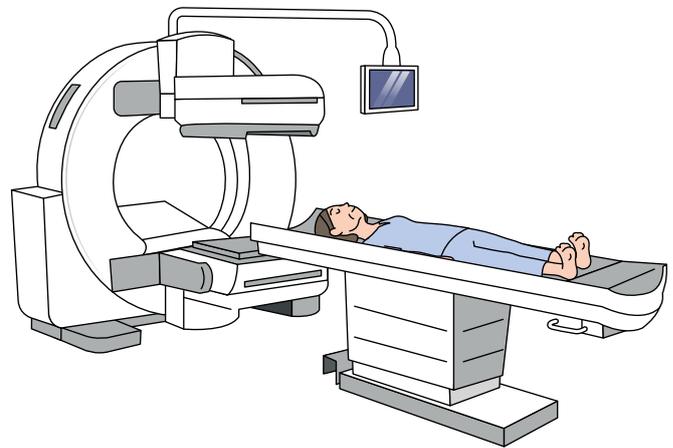
2 撮影

カメラのついたベッドに横になって、
2回撮影を行います。
撮影は10分程度かかります。

- 1回目の撮影は検査薬の注射から15～30分後に行います。
- 2回目の撮影*は検査薬の注射から3～4時間程度時間をおいて行います。

*2回目の撮影は行わない場合もあります。

※検査時はネックレス等の貴金属類、また金具・ボタンなどのついた衣服や下着ははずしてください。



検査前の確認事項

- 検査前ならびに検査中は食事制限は必要ありません。
- 以下の薬は検査結果に影響をおよぼします。下記にかかわらず、服薬中のお薬がある場合は申し出てください。
三環系抗うつ薬、塩酸ラベタロール(降圧薬)、レセルピン(高血圧・精神神経治療薬)
- 妊娠中の方・妊娠の可能性がある方、授乳中もしくは乳幼児がいる方は、主治医にご相談ください。

ご不明な点、ご不安に感じる点がありましたら、
お気軽に検査スタッフにお尋ねください。
なお、ご都合により検査を受けられない場合、
また検査の時間に遅れる場合にはかならず
ご連絡ください。

病院名および連絡先